



令和2年1月1日現在

世帯数	6,207戸
人口	15,676人
男	7,547人
女	8,129人

波田文化祭

清々しい秋晴れの中、11月2日・3日の2日間に渡って波田文化祭が開催されました。今年、波田体育館が改修工事のため、波田公民館と文化センターの2会場での開催となりました。令和最初の波田地区フェスティバル!! キャッチフレーズ通り、「みんなで行こう!! 新しい風につて」さあ、出発です。

公民館会場

玄関脇で販売されていた、焼き芋や焼き鳥のいい匂いにさそわれて駐車場広場を見渡すと、大勢の親子が木工教室に参加して、賑やかな笑い声が聞こえていました。1階エントランス付近では、波田町時代の懐かしい映像が流れてい



さあ、中に入って楽しんで!

て、お年寄りの方々が、目を細めて見入っていたのが印象的でした。

2階に上がると、波田中学校美術部の作品がズラリ。絵画や焼きもの、どれも力作揃いです。ここでもまた、うどんやそば、おやきや大判焼きのいい匂いが...

大会議室では、沢山の展示や販売が行われていて、多くの方が足を止め、手に取って眺めたり、購入されたりし



明るく光あふれる波田中学校美術部の作品



日本がんばれ2020五輪手まり



波田小学校児童の力作

ていました。毎年、「おっ!!」という作品を展示してくださる創作手まりの皆さん。東京オリンピックのロゴとマスコットをあしらった作品が目にとまりました。細かな作業で、一針一針丁寧に縫っていかれたのでしょうか。その労力は、大変だったと思いますが、出来上がりを想像しつつ、楽しみながら制作されたんだろうなと思います。他にも、デザイン豊富でサイズも色々な布ぞうりや、ウッドクラフトなど、見所いっぱいコーナーをめぐりました。

3階に上がります。壁に掲げられた梓川高校生の作品を眺めながら、第7会議室に足

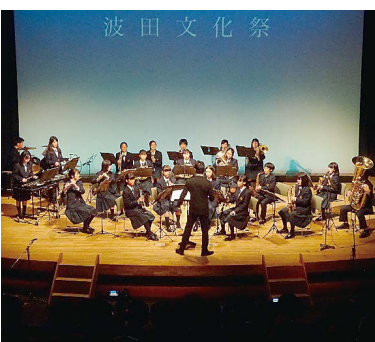
文化センター会場

を運ぶと、波田小学校と竹の子教室の作品が展示されていました。小学生による、のびのび生き生きとした文字。低学年の一笔一筆丁寧に書かれた文字。展示されている児童の保護者でしょうか、笑顔で楽しそうに見ており、たくさん写真に収めていました。

文化センターアクトホールでは3日に舞台発表が行われました。波田小学校合唱部の児童の皆さんによる合唱から始まり、13団体の踊りや劇、歌や演奏を楽しみました。各団体の皆さんが1年間練習を重ねた成果の発表の場です。子どもからベテランの方まで、皆さん緊張の中、成果発表をされています。今年、初参加の方もおられ「新しいことへのチャレンジが楽しく



背景の絵も自らの作品



力強い波田中学校吹奏楽部の演奏



心に澄みわたるオカリナ演奏



躍動するキッズたち

て、初めて参加しました!」と話してくれました。来年以降もこの様な発表の舞台に続けて参加していただきたいと思います。

文化祭にご協力いただきました皆さま、2日間大変お疲れ様でした。

地域の皆さんが力を合わせてつくりあげ、続けてきた伝統ある「波田文化祭」を今後も楽しみ磨いていきたいと思

18区

三九郎作り



令和元年12月15日(日)に町会の南東にある田んぼを借りて三九郎作りが行われました。事前に里山辺から心棒となる4mほどの杉の木と杉の葉を運搬しておきました。

田んぼの中央に50cmほど穴を掘り心棒を立てます。あらかじめ心棒の先端にしめ飾りをつけて、地区の方向に向くように調整します。心棒が1本のため垂直に立つようにす



るところが一番大変でした。心棒の周囲を太い枝で支えて縄で固定し、心棒が安定したところで周囲にわらを重ねていきます。形を整えながら高い所は脚立を使って縄で縛りながら作業を進めます。わらで円錐形ができたところで、杉の葉をわらが見えないように装飾していきます。最後に形が崩れないように縄で全体を巻いて出来上がりです。

作業終了後には、18区公民館で小学生が作ったカレーライスをおいしくいただきました。三九郎づくりは大変ですが、地域の子どもと触れ合うことにより、子どもたちの成長を感じ、これからも地域の皆様のご協力によりいつまでも三九郎を続けていければと思います。

1区町会

夏の思い出 食べ放題ながしソーメン大会



令和元年8月4日(日)午前11時から1区下三溝集落センター駐車場において、町会公民館と子ども育成会の共催により「食べ放題ながしソーメン大会」が開催されました。

児童の皆さんに楽しく健全な夏休み生活を過ごしていただきたいとの思いを込めて企画しました。

当日は好天に恵まれ、真夏の太陽が照りつける下、大勢の元気な子どもたちが参加しての開催となりました。大きなテントを張り、浮き輪やビーチボールを飾り付け、緩やかな傾斜をつけた4メートル程の雨樋を設置し、ソーメン、ミニトマト、冷凍してあったブルーベリーも流しました。子どもたちは大粒の汗をか



きながら大喜びです。瞳を大きく輝かせ夢中になってほおばっていました。

子どもたちにとって、いつまでも忘れることのない楽しい夏休みの思い出になったことと思います。そしてこの楽しい思い出がやがて、未来に向かって力強く歩んでいける原動力になればと願っています。



50歳を期に、補聴器を付けることにした。まだ若くためらいはあった。あえて目立つ耳かけ型タイプ。

幼い頃から耳は悪く、病院にも通い、結局は生れつきとの事で、それに加えて老人性の難聴となり、生活に支障が出てきた。一番は仕事。大事な話しが分からない。とりあえず仕事中のみ装着することにし、相手に聴力低下が分かるよう耳かけ型とした。

今まで何気なく出来ていた事に不自由さを感じるの辛い。一時期は人との会話を避けていたこともあった。そういう場に行きたくなかった。そうすると余計に聞こえなくなる。脳が聞かなくなると判断し努力しなくなる。脳の退化だ。負の連鎖である。

逃げていたら解決出来ないことが沢山ある。勇気をふり絞るまでは必要ないが、第一歩は大事である。耳に補聴器の管が付いている自分を鏡で見るのはいいものではないが、以前より脳は活性化してきている。補聴器なしでも聞こえが良くなっている。勇気を持って、負の連鎖からの一歩を。